

雜 墓

考 古 學 の 葉 (第三回)

文學士 濱 田 耕 作

第二章 資 料 (續)

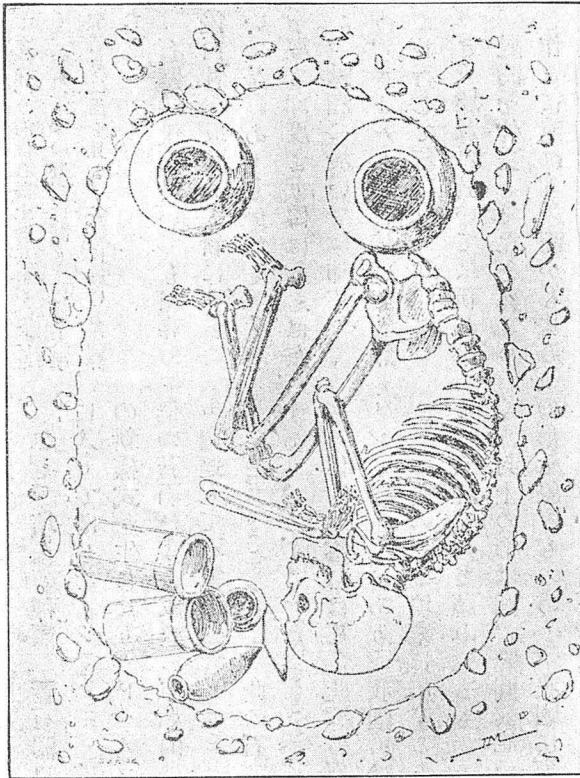
三、遺 跡 の 種 類

二四、墳墓 考古學的資料として最も普通にして且つ重要なものを墳墓となす。されば世人或は考古學者を以て「墓原探し」或は「高等隱坊」などと呼ぶも亦た以なきに非ず。殊に日本考古學に於いては石器時代の貝塚等を除きては、墳墓の外殆ど重要な遺跡なきを以て、"archaeology of sepulchre"の語の特に適切なるを覺ゆ。住居の構造に於いて何等見る可き遺物を殘さざる人民に於いて

も、墳墓に於いては、却つて經營を嚴にし其の遺跡の今日に見る可きもの少なからず。即ち我國の如きも其の一例なり。吾人は墳墓の構造に於いて住居のそれを類推し、其の内に藏むる遺物によりて生活の狀態技術の程度を窺ふ可く、宗教を研究し美術を考察するもの皆な以て之を寶庫とせざるは無し。然れども墳墓の内容豊富なるに比例して掠集的發掘を招くこと従つて多く、埃及支那の如きは古代より之を專業とせるものさへ生ずるに至り。されば考古學者をして或は「墳墓を發見す

るは易く、其の内に何者をか遺存するものを發見するは難し」と嘆せしむ。

二五、最古の墳墓 舊石器時代に於いては、住居としての洞穴がやがて墳墓となり特殊の遺跡なかりしも新石器時代に至りて、各人別々に葬りたる所謂 "Einzelngrab" 出づ。これは脚部を屈曲せる葬法によりたるもの多く稱して「屈葬」(Contracted Burial)と云ふ。埃及の王朝以前



せり。

(ド、モルガン氏ニ據ル)

第一圖 埃及及王朝以前之葬墳墓

に現今の野蠻人にも最も屢々見る所の風習にして、死者の蘇生して、禍を將來せんことを恐るゝ信仰より出でたるが如し。近く河内國國府村に於ける石器時代遺跡の墓地を發掘したる結果亦た此の葬法に依れるを發見

河内國府村の遺跡は大正六年六月京都帝國大學始めて之を發掘し、爾來鳥居龍藏、本山彦一、大串博士等の發掘あり。此の風葬によれる遺跡數十を發見し尙ほ石器土器其他を獲たること已に述べたるが如し。京都大學の發掘に關しては同大學の文科大學考古學研究報告第二冊を見よ。各國に於ける風葬の諸例も同書に註記したり。

二六、葬法の種類 石器時代に於いても屈葬の外「洗骨」即ち假葬の後白骨を取集めて新に葬ること、已に埃及等に於いて是れありしが如し。火葬は我國に於いて支那を経て印度より傳はりしは奈良朝に近き頃なりしが、歐洲に於いては却て早く青銅器時代に此風あり、エトルスキに於いても然り。且つ火葬は土葬と並行して行はれ、其間必しも人種上の區別無かりき。埃及に於いては新石器時代の屈葬に次いで、屍體を伸長して之を葬るの風生じ、後ち木乃伊を作るに至れり。而かも其の葬法の差違は何等人種上の區別を示すものに非ずとは最近の學說なり。學者宜しく此等の諸例に鑑

みて、妄りに葬法の差違より速論して人種の區別に到達する勿れ。

二七、墳墓の種類 新石器時代より青銅器時代に入りてはドルメン (dolmen) 及高塚 (tumulus) 等の新様式を生じたり。ドルメンは三個の側石と一個の蓋石とより成れる原始的の石室にして、之より發達して石室墳墓 (corridor tomb, allée covered, Ganggrab) となる。此の石室の上には古くは封土あり、今なほ之を存するものを、高塚と稱するなり。但し通俗には凡て此等の石室ある墳墓をドルメンと呼ぶことあり。我國に於ける古墳は即ち主として此の石室墳墓に屬するものなり。封土の代りに石塊を以て積みたるものを石塚 (Caern) と名く。封土の形は圓、橢圓其他種々あり、時に動物の形を象るものあり。我國に於いては圓形方形の外前方後圓の如き特殊の形式を發展し、支那にては方墳殊に顯著なるを見る。埃及に於いては古く

マスタバ (mastaba) なる構造あり。次いで金字塔 (pyramid) の如き偉

等に關する詳細なる記述並に墳墓の外側に樹つる埴輪石人等に就きては今一々之を述ぶるの暇なし。

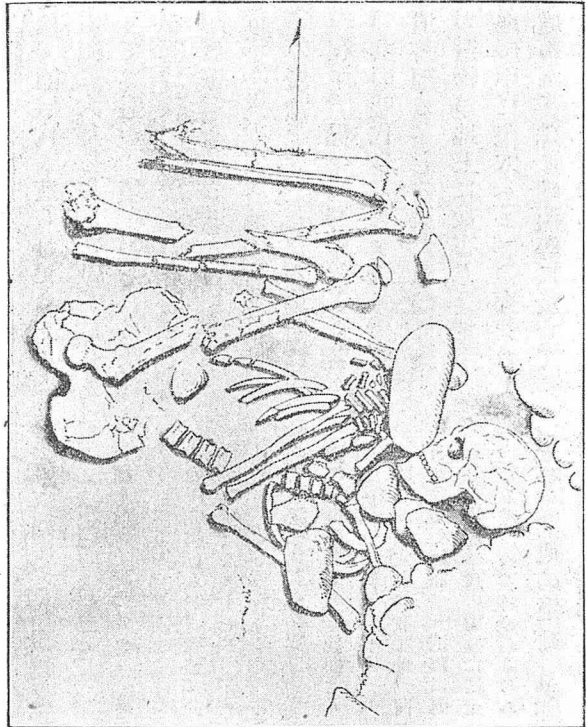
大なる建築を生ずるに至れり。又た墳墓の石室を自然の懸崖に窟つことは、各國に於いて屢々見る所にして即ち横穴 (Rock cut tomb) と稱するもの是れなり。

墳墓の石室内には屍体をその儘葬るゝことあるも、木棺、石棺、陶棺等に入れて之を葬るを常とす。我

國の石棺に掘抜き式

割竹式、箱式 (阿波式石棺とも云ふ英語の所謂 oss) あり。此

(池上氏寫生ニ據ル) ず。大ピラミットを建造せる埃及古帝國の時代のなるもの多から



第二圖 河内國村石器時代 大正七年四月本山人氏發掘 (大正七年四月本山人氏發掘)

二七、住居等の遺跡、住居の遺跡は墳墓よりも普遍的にして必然的存在を豫想するも、文化の開けざる民族及時代に於いては、其の經營を粗略にするを以て各國共に顯著なるもの多から

如きも、住居宮殿寺等の遺跡は殆ど全く之を見ること無し。自然の洞穴若しくは簡單なる小屋掛に過ぎざる最古の住宅は、同時代に造られたるドルメン、石室墳墓等との間に大なる徑庭あり。故に考古學上の價値に至りては遙かに墳墓のそれに及ばざるなり。さて新石器時代の住居地の遺跡として著しきものは、所謂貝塚 (Kitchien midden, shell-mound) なり。是は當代人民が住居地の附近に貝殻獸骨其他土器石器等の廢物を投棄したる場所にして、海湖の附近に存在す。現今の海岸線より若干の距離を有するは、其の時代の古きを證す。我國に於いても貝塚の遺跡頗る多し。又た貝殻の集積なく、土器石器等の遺物の地上に散布し、地下に包含する處あり。地層中に堅穴 (pit) の穿たれたるを想像せしむる處あり。殊に瑞西等に於いては湖底より棧を打ちたる跡と、石器其他各種の遺物を發見し、其の湖上住居 (Lake-dwelling Platform)

baucen, Palafitte) の存在せしを知れり。水上に非ずして低濕なる地上等に棧を打ち小屋掛せる遺跡は北伊太利にて多く發見せられたり。之をテラマーン (Terramare) と云ふ。

貝塚を最初に研究せるは丁抹の學者トムセン (Thomson) ステインストルツプ (Steinstrap) 等なり。其後各國に於いて其の研究起れるが、我國に於ては明治十二年東京大學の動物學教授米人モールス (Morse) 氏の東京附近の大森貝塚を發掘せるを以て嚆輿となす。(大森介翁古物編) 氏は北米フロリダの貝塚をワイマン (Wymann) と共に發掘せる人なり。次いで當總各地の貝塚多く發掘せられしが、關西地方の貝塚は漸く近年に至りて研究せらる。我國に於いて貝塚以外の石器時代遺跡には堅穴遺物散布地、同包含地等あるのみ。石器及其の石層の多く散布する遺跡は通常石器製作地に考へらる。古墳以外の原史時代の遺跡には土器製造所たる窯跡、玉類の製作地たる玉造の遺跡等あるのみ。

二八、其他の遺跡 歐洲の新石器時代もしくは青銅器時代の遺跡としては、貝塚以外に巨石を以て營造せる諸種の遺跡あり。メンタル (menhir) と

稱するものは一或は多數の巨石を並立せしめたるものを云ひ、クロムレヒ (Cromlech) とは巨石を輪狀に廻らせること、英國のストーンヘンジ (Stone-henge) の如きものを云ふ。此等は其の目的に關して正確なることを知り難きも一種の宗教的意義を有せしものたるや疑なし。我國に存する輪狀石所謂神籠石カウユイシと稱するものは、諸説あるも近來は主として城郭的のものなりと考へらる。家屋市街寺院等の遺跡は練瓦石材等を以て造られたる諸地方に於いては古くより其の遺跡あり。其の地上に完存するものを除きては、多く小高き丘陵狀をなせり。埃及西亞等に於いて所謂テル(Terra)是なり。クリート島にては希臘以前に榮へたるミノス時代に屬する宮殿クノッス (Knossos) フェストス (Phaistos) 等をはじめグルーニア (Gounia) の市街の遺跡あり。紀元前二千年に溯る可しと云ふ。希臘羅馬時代のものに至りては市街の發掘せせられ

しもの頗る多し。ヴェスヴィオの噴火によりて埋没せられたるポンペイ (Pompeii) ヘルクレウム (Heracleum) の兩市の如き、北亞弗利加に遺存せる羅馬時代のテムガッド (Timgad) の如きは、市街の化石として最も有名なるものなるは世人の夙に熟知する所なり。其他ベルガモン (Perpamon) プリエネ (Priene) の如きも顯著なる市街遺跡なり。若しそれ寺院神祠の建築の遺跡に至りては、其の完形を存し、遺墟を殘せるもの各國擧げて數ふ可からず。皆な美術史建築史の資料として重要な部分をなし、西洋の考古學者が特に興味と努力とを以て研究する所なるも、我國に在りては奈良朝以前の建築物として、法隆寺等に數個の遺物を殘存せる外、伊勢神宮等に古建築の様式を土俗學的に傳承せるあるのみ。其他は僅に堂塔の礎石を止むるに過ぎざるは、材料の性質より來れる自然の結果とは云へ聊か貧弱の感なき能はず。

支那に於いては古墳以外に城址
 其他の遺存するもの少からず。
 殊に近年發掘せられたるものは
 河南省滎陰縣なる殷代の遺蹟な
 り。此地より龜甲牛骨に文字を
 刻せるもの、及び石器骨器銅器
 等を發見せり。(羅振玉氏、殷墟
 古器物圖錄) 又た西域新疆甘肅
 地方の流沙の中より上古代住居
 佛寺等の遺跡をヘデン、スタイ
 ン、グリユンウエーデル、ルコ
 ック、大谷光瑞諸氏の發掘して
 古代文化史上に重大なる寄與を
 なせることは今更贅言を要せず
 滿洲に於いては余輩は嘗て旅順
 附近の牧羊城址と稱するものを
 試掘して、漢代前後の遺物を獲
 たることあり。

二九、遺物遺跡の名稱

新に發見せられ若しくは注



英國メイスドントのメルン

第三圖

意を拂はるゝに至りし遺物遺跡
 に對しては、考古學者は之に適
 當なる稱呼を附するの必要を見
 る。此の場合に於いて學者須く
 自己の臆説による時代もしくは
 人種等に本く名稱を附するを避
 く可く、たゞ其の性状を示摘し
 、或は最初に發見せられたる地
 名等を附するを以て、最も學術
 的態度となす。何者自己の學説
 は將來の研究によりて之を變更
 するの目あるを豫想するは、單
 り謙讓なる態度なるのみならず
 過去の學界の歴史は之を證して
 餘あり。されば其の學説の變動
 に際する毎に名稱を變更するの
 不都合を避くる爲めには、豫め

此の用意あるを要す。然るに我國に於いては由來文字名稱の末に關して議論多く學者好んで自己の學說による新名稱を冠せんとするの弊少からざるは戒む可きなり。

希臘アゼンスのテイヒロン門外より始めて發見せられたる一種の土器は、今なほテイヒロン土器と稱し、クリート島カマレス洞より發掘して學界の注意を惹ける土器は之をカマレス土器と云ふ。我國に於いても本郷彌生町より發見せる一種の土器を彌生式土器と云ふ何等の不都合なし、阿波式石棺の稱の如きも亦た之を用ゐて可なり、大なる差支なき限りは最初の命名者の使



第四圖 英國ヘントンのストーンヘンジの石

用せし文字と名稱とに従ふ可し。かの金石併用時代の如きも、伊太利の學者はじめて *Petrolio eneolitico* と稱したるも、此語は拉丁語と希臘語の混合にて面白からずして *Chalcolithic* なる名稱を使用せる學者あるも、學界の多數は寧ろ前者を慣用するに非ずや。徒に新名稱を附し、文字を穿鑿するは支那學者より邦人に感染せる通弊なり、然れども名稱の混亂甚しきか、或は適當なる機會あるに際して學者の會合して、名稱の協定を試むることは固より歓迎す可し例へば一八六七年巴里の萬國人類學先史考古學會に於いて巨石紀念物の名稱を定めたるが如き一九〇〇年米國學者が石器土器の名稱及部位の稱呼を協定した

るが如きは是れなり。余輩は我國に於いても斯の如き會議の開催せられて、新名稱の一定せらるると同時に、考古學者が協力親和するの機會の近からんことを望むと共に、それ迄は努めて舊稱呼を使用して、自己の見解は其の注脚解説として附することに止めんことを希望す。(此章完了)

朝鮮の白丁と我が傀儡子

文學博士 喜田貞吉

「藝文」四月號に掲げられたる今西學士の「朝鮮白丁考」は、近時に於て余輩が最も多くの興味を以て精讀したる論文の一なりき。朝鮮に於て「白丁」なる語が、和漢普通の用例に異なりて、一種の賤民を表はせることに就いては、余輩はかねて甚大の疑惑を抱懷しき。更に其の白丁なる賤民が果して如何なる由來と沿革とを有するかに關して我が賤民の研究上、之を知らんと欲するの念頗る切なりき。而も余輩未だ親しく、之を調査するの機を得ざりしが、今や今西君によりて、其の精密なる考證を聞くを得たり。是れ特に余輩に取りても最も愉快を感ずる所なりとす。

今西君に従へば、「白丁」なる語は朝鮮に於てももとは本邦並びに漢土の用例の如く、常民の丁男を示すの語なりき。而して別に「才人」「禾尺」なる賤民あり。共に漂泊流移の特殊民にして、農を事とせず、柳器を作り、狩獵に従ひ、馬を役するに長じ、屠獸を業とし、皮物を以て生活に資するの習俗を有す。而も其の兩者を區別して言へば、才人の方は歌舞遊藝に従事し、特に其の配偶者は祈